

只見町議会議長 齋藤 邦夫 殿

総務厚生常任委員会
委員長 藤 田 力

総務厚生常任委員会行政視察調査報告

本委員会の所管事務について、調査を行いましたので下記のとおり報告します。

記

1. 調査事項

- (1) 高齢化する地域包括ケアシステムの構築について
- (2) 人口減社会における発想の転換について

2. 調査場所 埼玉県小鹿野町、地方議員研究所

3. 調査日 平成30年8月30日～31日

4. 出席委員 藤田力委員長、中野大徳副委員長、鈴木征委員、佐藤孝義委員、山岸国夫委員

5. 調査内容

(1) 高齢化する地域包括ケアシステムの構築について

①調査場所 埼玉県小鹿野町

②調査日 平成30年8月30日

③対応者 森町長、黒澤議長、分須保健課長、黒澤中央病院事務長、近藤事務局長

④内 容

人口12,000人、高齢化率35%、昭和28年に県内でも早めに病院を開業した。ここを中心に地域包括ケアシステムを発足させた。保険・医療・福祉・介護と埼玉県内でもトップクラスの地域包括ケアシステムとなった。

当初は、食生活も大きな課題だった。塩分を控える食事、食事を持ち寄った指導、そうした積み重ねがベースになった。高齢化が大きな課題となっている。財政は青天井ではなく限界がある。

後期高齢者の医療費736,000円、全国は949,000円。

病院のベット数は95床、日帰りドックもやっている。30,000円くらい。年間赤字は、一億円。職員は正規職員83名、臨時職員51名の計134名。看護師3名を今年採用した。思うように医師の確保ができない。

生き生きサロンは社協が主体で10年前から、筋力体操は28年前からやっている。

(2) 人口減社会における発想の転換について

①調査場所 地方議員研究所 早稲田大学大隈記念タワー

②調査日 平成30年8月31日

③対応者 吉田雄人氏 早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員、前横須賀市長

④内 容

「ないものねだり」から「あるもの探し」

横須賀市長二期、三期目に挑戦したが敗れる。という経歴の持ち主。市長時代から常に問題意識を持ち、如何にしたら良くなるか？絶えず、データの分析をし

ながら解決に取り組んだ。その経過を一つずつ説明・解析してくれた。

- ・横須賀 転出超過日本一 平成25年→1772人。
- ・横須賀の街の良さが伝わっていない？
- ・減少した人口の消費分を来訪者で賄えないか？
- ・観光消費でこれまでの経済活動の量を確保することが必要。
- ・ハコものに頼らない町起こしはできないか？
- ・ないものねだりがあるものを活用することが必要。
- ・横須賀→基地の町→イメージ発想の転換→積極的に基地をアピール。
- ・よこすか海軍カレー、横須賀軍港めぐり、横須賀グルメ、基地開放イベント、ドル街横須賀、生きた英語を学べる街。

「人口減少社会における発想の転換」

- ・2025年多死化社会の到来 団塊の世代が全員、75歳以上の後期高齢者。
- ・5人に一人が75歳以上という超高齢化社会。
- ・自分の最後に対する市民意識。
- ・最後を迎えるとき、延命治療を希望されますか？ 希望しない75%。
- ・死亡場所の意識調査 60%が自宅、23%が病院、10%が老人ホーム。
- ・新たに浮かびあがった課題。

65歳以上のうち13%が単身世帯、貧困世帯の増加、無縁社会の広がり。等、多くの事例が紹介された。ほとんど自分が市長時代に手掛けた案件なので豊富な話題とともに話がおもしろかった。負のイメージを逆手にとった軍港カレーなど当町にも大いに参考になりました。紹介事例集(部厚く2冊)あるので見たい人は総務厚生メンバーまでお問合せください。

以上